

米国の種牡馬とその管理法について

有限会社ビッグレッドファーム 明和 小林 隆広

今回の視察での私のテーマは、米国のトレンド種牡馬とその管理方法でした。視察した牧場について時系列に沿って、特に印象に残った牧場を中心に記述していきます。

◆牧場視察 1 日目◆

◇テイラーメイドファーム◇

米国初の牧場見学となりました。

種牡馬の飼料は、スウィートフィードと呼ばれる配合飼料と糖蜜を混ぜたものとコーンオイルを使用し、給与回数は1日2回。

天気次第ではあるが、基本的に種付けシーズンでも昼夜放牧を行い、種付け1時間前に集牧し種付けを行うというスケジュール。

この地域では、冬の間でも雪が積もらず草が足りなくなることはなく、良質なケンタッキーブルーグラスが生えているので、エサを過剰に与える必要がないとのことでした。

◇ラムジーファーム◇

繋養種牡馬は、2013年米リーディングサイアーのキトゥンズジョイ1頭のみ。

2014年の種付け料は10万ドルで、204頭の繁殖牝馬に交配され米国における今年一番の種付け頭数とのこと。

オーナー所有の繁殖牝馬数は約120頭で、驚いた事にそのうちの約100頭はキトゥンズジョイと交配しており、かなりの自信を持って生産を行っている印象を受けました。



キトゥンズジョイ

後日観戦することとなるブリーダーズカップにおいては、産駒のポビーズキトゥンが BC ターフスプリント優勝し、さらに BC ジュヴェナイルターフと BC フィリー&メアターフの2つの G I レースにおいても産駒が2着となり、その活躍が目立ちました。

日本では、産駒のダッシングブレイズが今年の東京芝 1,800m の新馬戦を、ラスト 3F33.2 秒という素晴らしい走りを見せて優勝しており、日本の芝でも適性は高く今後の取引動向が楽しみです。

◇スペンドスリフトファーム◇

厩舎の美しさに感動。更に新しい厩舎を建設中でした。

ここでの目玉は、なんといっても父がエーピーインディのマリブムーン。初年度の種付け料は 3,500 ドルでしたが、2014 年には 95,000 ドルと上昇中の人気種牡馬です。

その他の注目種牡馬は、今年 203 頭の繁殖牝馬と交配されたイントゥミスーフ。この後に観戦した BC ダートマイルを産駒のゴールデンセンツが、前年に続き優勝し連覇を果たしました。

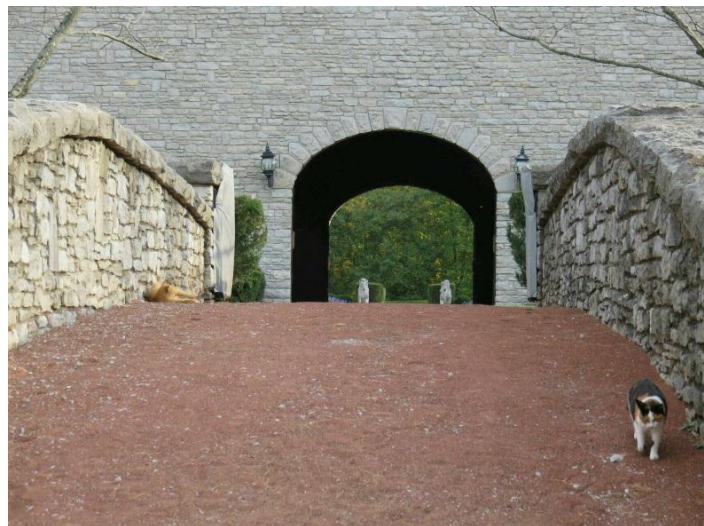
◆牧場視察 2 日目◆

◇アシュフォードスタッド

クールモアグループのアメリカの牧場です。これだけの美しい施設と環境を、競走馬の事業だけで成り立たせているとはとても思えませんでした。

今年の種付け頭数は、全体で約 1,600 頭。

種付け所は 2 ヶ所あり、地面は車の廃タイヤを刻んでクズ状にしたものを敷き詰めであり、かなりの弾力がありました。



アシュフォードスタッド

放牧時間は、早朝に放牧し午前中の中に馬房に戻し、週に 5 日間はロンジングによる運動を行うとのことでした。

ここで見学したジャイアンツコーズウェイの産駒が、後日 BC ジュヴェナイルフィリーズを優勝しました

◇レーンズエンドファーム◇

厩舎と応接間が繋がって 1 つの建物となっており、洒落ていると感じました。

引退した種牡馬には、エーピーインディ、キングマンボがおり、一瞬視察に来ていることを忘れるほど興奮してしまいました。

スマートストライクは、今年 22 歳にして約 100 頭の種付けを行ったそうです。

II 研修者の見聞記

ただこの馬に関しては、1日の2回までの種付けが限度とのことでした。

放牧時間は、種付けシーズン以外は昼夜放牧の管理、飼料はスウィートフィードを使用していました。

実際の飼料を確認できた牧場では、多少種類が違ってもスウィートフィードを皆使用しており、米国ではメジャーな飼料のようです。

◇ウインスターファーム◇

ディストーティドヒューモア、ティズナウ、スパイツタウンなど充実した種牡馬のラインナップでした。

建物は、種馬展示スペースに向けて天井から多数の電気光が色々な角度から当たるように設計されていて、かなり馬が見映えするよう工夫されていました。厩舎と種付け所が繋がっており、雨の影響も全く問題なく機能的な造りでした。

昼夜放牧による管理の上、馬によってはウォーキングマシーンや騎乗する馬もあるとのことでした。2週間毎に、マネージャーが馬体と体重から判断し、各馬の飼料や運動内容の細かい指示が出され、種付け回数は1日3回が限度とのことでした。

◆牧場視察3日目◆

◇ゲインズウェイファーム◇

なんと言ってもタピットです。後日、産駒のアンタパブルがBCディスタフを優勝しました。来年の種付け料は30万ドル。

他には、アフリートアレックスも見学しました。この馬の産駒もBCジュヴェナイルを優勝しました。

種牡馬の放牧時間は、年間通して午前中の7:30~11:30のみで、強制的な運動は課さず、舎飼い時間が長いですが、飼料の給与は1日2回のみでチモシーを多めに与えるとのこと、意外な管理内容に驚きました。



タピット

◇クレイボーンファーム◇

100年以上の歴史のある名門牧場です。お墓には、セクレタリアト、ミスタープロスペクター、ニジンスキーII、ナスルーラなど超ビッグネームの馬がズラリ。

現役種牡馬では、種付け料 15 万ドルのウォーフロントが目玉でした。冬場以外は昼夜放牧にて管理しているとのことでした。

種付け所は意外と狭く、地面はポリトラックと同じようなものが使用されていました。

◇アデナスプリングス◇

牧場面積約 970 ヘクタールというとんでもない広さ、それに加えて景観の美しさが群を抜いており、それに圧倒され思わず笑ってしまいました。

見学したゴーストザッパーの産駒が、後日 BC フィリー&メアスプリントを 1 着 2 着しました。

放牧体制は、種付けシーズン以外は昼夜放牧を行い、ウォーキングマシーンによる運動も行うとのことでした。



アデナスプリングス

以上、色々な牧場を見学して感じたことは、まずどの牧場にも当てはまることですが、その景観の美しさです。広大で終わりを感じさせない土地と、緩やかな丘が織り成す地形が、そう感じさせるのは確かです。ただそれだけではなく、厩舎の隅々に手が行き届いており通路などスッキリとした印象を受けました。

環境整備に対する美意識が高い印象を受けました。

種牡馬の管理方法に関しては、それぞれ違いがあり、どこの牧場も問題なく管理できているので、どの管理が最良であるとは言い難く、むしろそれよりも日々の馬に対する観察力が必要であって、それが馬のコンディション維持に良い方向に進んでいるのではないのでしょうか。

今回見学した牧場の半分以上で、種牡馬であろうと昼夜放牧を実施していたことは、個人的に賛同しています。

ただ、ケンタッキーと北海道の冬の気候の違いを考えたときに、私達は、馬を管理する上で、強制的な運動の確保や、飼料の見直しなど、改めて考え直す必要があると、この視察を通じて感じさせられました。

最後になりましたが、この研修にご尽力いただいたすべての皆様に感謝します。ありがとうございました。